

生徒指導

クラスの子どもたちのカルテを作ろう！

B5またはA4ノートを使用。
見開きの2ページを1人分とする。
学級分を1冊にする。

○元資料

- ・ 指導要録
- ・ 健康診断表
- ・ 組分け資料
- ・ 健康調査票
- ・ 児童指導資料

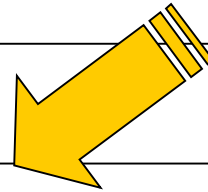
など



○記録すべき項目

- ・ 住所
- ・ (携帯) 電話番号
- ・ 緊急時の連絡先
- ・ 学習成績
- ・ 性行
- ・ 健康状況
- ・ 家庭
- ・ 特記事項

(注) 裏表紙に校区内地図に子供の
家を記入した紙を貼っておく。



○その後

- ・ 指導した内容
- ・ 家庭訪問の記録
- ・ 個別懇談会等親との懇談の記録

資料は、あくまでも資料。

自分の目で確かめることが一番大切なことである。

生徒指導上の問題が起こったときの対応

まずは、普段の学級経営をしっかりやること。

- ①授業で子どもを育てる。
 - ・子ども主体の問題解決学習を行う。
- ②家庭訪問をする。
 - ・親とのコミュニケーションを図る。
 - ・用事のないときの家庭訪問→がんばったこと・プラス面を認め、伝える。
 - ・1年に最低3回の家庭訪問。
- ③休み時間・放課後は、子どもとよく遊ぶ。
 - ・1日1回は、それぞれの子どもに声をかける。
 - ・子ども同士のコミュニケーションが図れる場づくり
- ④まじめな子どもが、損をしない学級づくり。
 - ・サボったり、ごまかしたりする子どもは、損をするようにする。
 - ・悪いことをした子どもは、みんなの前で叱り、後で個別指導をしてフォローする。
 - ・悪いことをしている友達を見ていた子どもにも必ず注意する。
- ⑤例外は、認めない。
 - ・先生自身も例外を認めない。つくらない。
- ⑥先生は、うそをつかない。約束は、絶対守る。
 - ・守れない約束はしない。

**問題が
発生するまでに！**

- ・普段の児童の様子をよく観察すること。
- ・事故が起こるときは、必ず児童が何らかのサインを出すものである。
- ・この時点での解決が一番望ましい。

教育とは、「指導」ではない、「観察・刺激・相談・案内・激励」である。

生徒指導は、TPOが大切である。そのときその時点で判断、決断を下し、最善の方法を取っていかなければならない。後で「こうすればよかった。」といくら反省しても意味がない。後で考えるのと、その時点で考えるのとは、全く違う。反省では、「瞬時の正確な判断力」を培うことはできない。

問題(事故)が、発生したら

①事故がわかれば、すぐに学年世話係・生徒指導係・教頭に連絡をし、対処の仕方を相談する。

②事故の内容を詳しく把握する。

- ・時間的経過をもとにメモをとっておく。
- ・「いつ・どこで・だれが・なにをした」は、正確に。
- ・児童が、複数の場合は、個々に別々に聞く。

※内容が食い違う場合は、正しい内容がどれかをはっきりとさせる。

警察ではなく、教育者としての把握

児童の本当のことを把握する。だまされては、児童の今後のためによくはない。

③事故がわかった時点で、必ずその日のうちに解決をする。

④事故の内容を詳しく把握してから保護者へ連絡をとる。

- ・担任一人で解決しない。
- ・(世話係または生徒指導係) + 担任で対処する。
- ・特に保護者と話をする場合は、できるだけ第三者を入れること。文書ではなく話なので、後でこじれるときがある。

・保護者との話の内容

(1)事故内容の説明

- ・問題点をはっきりさせる。
- ・加害的な立場にある児童がいる場合、連絡は特に慎重に。
- ・加害者、被害者と決め付けない。
- ・できるだけ加害者をつくらない。

(2)事後処理について

- ・金銭、物品等物理的な処理については、保護者ときちんと話をしておく。
- ・保護者(例えば母親)が納得しても、帰宅後、他の家族(例えば父親)より異議の申し立てが予想されるので、配慮が必要。

(3)事後指導について

- ・関係教師及び学年世話係+生徒指導係(教頭)で相談しておく。
- ・今後の指導は、学校での対応と家庭での対応について保護者と話をする。
- ・補償、弁償等については、軽々しく話題にしない。

性善説で考えよう!

これで終わりではない。

子どもが問題行動を起こすには、必ずその背景がある。その背景をさがし、問題行動の原因を探り、それを除去してやるのが大切である。保護者と常に連絡を密にとりながら、根本的な問題の解決に向かって努力する必要がある。

生徒指導の記録

記事内容			
児童名	男・女	担任名	
	年 月 日生	印	
保護者名	住所	電話番号	
家族構成 及び同居人	父	母	
家庭環境・家庭教育観等特記事項			

記事発生日時	記録日
指導した内容および経過（日時・指導者・指導対象者を明確に）	

子どもの脳の皮質ではなく髄質を刺激するような言葉かけをしよう。

—子どもの心に響くような言葉かけをしよう。—

子どもをよく観察して、その子に適切な刺激を与え、そして一緒に考えてやることが大切である。どんな刺激がいいかいくつか考えてみた。問いかけの形にするか断定の形にするかは考えなくてはいけない。

(悪いことに対して)

- そんなに人の悪口を言って、恥ずかしくないですか？人間として恥ずかしいとは思いませんか？
- そんなに人の悪口を言って、恥ずかしいなあ。人間として恥ずかしいことだなあ。
- 人の心を傷つけて楽しいですか？悪いことだと思いませんか。
- 人の心を傷つけることが、楽しいんやなあ。悪魔みたいな心をしているんか。
- 人の心を傷つけることは、取り返しのつかない怪我と同じですよ。擦り傷は、時間がたてば、治ります。でも心の傷は、一生治らないのですよ。あなたは、そんな悪いことをしたのですよ。
- そんなことをして、友達を減らしていつていることがわかりませんか？気がついたときは、あなたの周りには、誰もいなくなりますよ。
- うそをついて、人をだますことがそんなに楽しいですか？はづかしいとはおもいませんか？悪いことだと思いませんか？
- うそをついて、人をだますことが、悪いことだと思いませんか。人間として恥ずかしいことですよ。
- 泥棒は、警察官のいるところでは、悪いことはしません。いないところで悪いことをします。あなたも同じことをしているとは思いませんか。学校は、泥棒を育てるところではありません。
- そんなことをしていたらきっとお母さんは、悲しく思うでしょうね。お母さんを悲しませるようなことをしていいのかなあ。
- 悪いことをして悪いと思ったら、その心が相手に伝わるような態度を見せないとあなたの心は伝わらないよ。口だけで謝っても意味ないよ。
- あなたがたたいても○○君は、仕返しをしなかったよね。その気持ちがわかりますか。くやしくて仕返しをしたかったけど我慢したのですよ。あなたよりはるかに強い心を持っているよな。あんたの負けやね。
- 人が困っているのを見て、馬鹿にするのがそんなに楽しいのですか。あなたの心が、ゆがんでいることに気がつきませんか。人間として恥ずかしいですよ。
- そんなことをしていたら、明日は、今よりもっと悪い人間になりますよ。そうやって、だんだん悪い人間になっていくのです。

(いいことに対して)

- あなたのやっていることは、素晴らしいことですよ。自信を持ってやりなさい。先生も応援します。
- 自信を持ってどんどんやりなさい。先生は、あなたを信じています。いつでもあなたの味方ですよ。応援しています。
- 自信がないことは、いいことですよ。自信がないから努力するのです。そうして、成長するのです。
- あなたが失敗しなければ、多くの友だちは、気がつかなかったのですよ。みんなのためになりました。大切なことは、この失敗をどうやってなおしていくかと言う事です。一緒に考えましょう。
- あなたが悪いことをしようと思って、やったのではないよね。結果として悪くなっただけです。だから、これをどうやってなおしていくかですよ。
- あなたのやり方は、まずくはない。自分で一生懸命考えてやったところが素晴らしい。自信を持ったらいよいよ。
- やさしいね。あなたの温かい心が伝わってきます。
- あなたの姿を見ていると、一生懸命やっているのがよくわかります。
- あなたのやっていることは、素晴らしい。心の成長を感じるね。
- あなたの答えが、素晴らしいわけではない。いつも参加しないあなたが、意欲的に参加してくれたことが先生はうれしいのです。
- 友だちの気づかないところで、いいことをしているね。あなたの優しい心がよくわかります。素晴らしいね。
- 口で言うより、態度で心を伝えたいですね。
- 友だちのためにしてあげるのは、自分の心を豊かにするためですよ。自分の心が成長していくのは、素晴らしいことですね。
- 人に親切にしてもらったら、心から「ありがとう」と言える人が、素晴らしいね。
- 人に親切にできる人は、きっと自分に親切にしてもらってうれしかったという経験を持っている人ですね。

けんか

の仲裁をどうするか？

まじめな子
いい子
正しいことを行う子

が、損をするような学級をつくってはいけない。

が、得をするような学級作りが必要だ。

けんかをとめる。

T：A君。どうしてB君をたたいたのですか。

A：B君がたたいたから。

T：B君どうしてAくんをたたいたのですか。

B：A君がいやなことを言ったから。

T：A君。どうしてB君にいやなことを言ったのですか。

A：ぼくは、言ってないよ。

B：言ったよ。

T：先に手を出したのは、B君だからB君が悪い。謝りなさい。

ここからが問題だ。

先に手を出した方が悪いと
いう論理。

これでは、
けんかは、終わっていない。

悪いこととは、

1. 相対的な問題ではない。悪いことは、どんな理由があれ、悪いことなのだ。
理由によって正当化されるものではない。

2. 絶対的なものである。誰が、どんな理由でやろうと悪いことは、悪い。

そこで、A・Bに対して「自分が相手に対してどんな悪いことをした」かを言わせる。

T：理由があるかもしれないが、悪いことをしたのだから、そのことについて相手に謝りなさい。次に、周りにいた人に聞きます。どうして、黙って見ていたのですか。悪いことをしている人を見たらどうするのですか。それも、君たちと同じ仲間でしょ。

黙って、見ている人も悪いのですよ。

(止めようとしたという子どもがいれば、誉めてやる。)

けんかは、相手が何をしたかではなく、自分が何をしたかを考えさせること。

見ていた者にも注意をすること。